

2014 年（平成 26 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2014 年（暦年） 段ボール需要予測 13,600 百万㎡ 前年比 101.0%

2013 年の国内経済は、円安による輸出拡大や緊急経済対策を背景に堅調な推移を示しており、年末にかけては消費増税前の駆け込み需要も予想される。

段ボール需要は昨年（2012 年）+1.0%の伸び率であったが、2013 年も平均 1%強の伸長で推移しており、2012 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 100.5%を上回る前年比 101.4%程度となる見込みである。

2013 年 9 月に公表された民間調査機関 6 社の実質 GDP 成長率予測の平均値は、2013 年度プラス 2.7%、2014 年度プラス 0.5%となっており、2014 年度は消費増税後の反動による成長率の鈍化が見込まれた予測となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2014 年（暦年）の段ボール需要を 13,600 百万㎡（前年比 101.0%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月に消費増税前の駆け込み需要が発生し、4 月以降はその反動があると見て、1 - 3 月 102.8%、4 - 9 月 100.3%、10 - 12 月 101.0%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」は消費者の低価格志向はまだ強く、景気回復による個人消費の押し上げ、中食市場の拡大、夏場の高温による飲料等の増を見込み、1%以上の伸びと予測。「薬品・化粧品用」は生活必需品が多く、消費増税前の駆け込み需要も予想され前年を上回ると予測。「青果物用」は天候に左右されるが、底打ち感もあり、前年並みと予測。「電気器具・機械器具用」は円安による国内生産増という傾向もあり、海外生産移管の動きに歯止めがかかるが、4 月以降の消費増税後の反動も大きいと予想され、1%程度減少すると予測。「通販・宅配・引越し用」は引き続きネット販売を中心に好調さを継続し、段ボール需要も増えると予測。

以上

段ボール生産量推移

